BRIDGE REPORT
ブリッジレポート

Bridge Salon

Bridge Report ビューティ花壇（３０４１）

小田 敬史 社長

会社名	株式会社ビューティ花壇
証券コード	3041
市場	東証マザーズ
業種	卸売業(商業)
社長	小田 敬史
所在地	東京都港区西新橋 2-16-2
事業内容	生花祭壇の企画提案・作成・設営、生花の卸・物流が2本柱。両事業の相互補完に強み
決算期	6 月 末日
HP	http://www.beauty-kadan.com/

株式会社 ビューティ花壇

－株式情報－

株価	発行済株式数		時価総額	ROE（実）	売買単位
43,000円	24,552株		1,056百万円	6.3%	1株
DPS（予）	配当利回り（予）	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR（実）
345円	0.8%	1,140円	37.70倍	18,206円	2.36倍

*株価は2/18終値。発行済株式数は直近期末の発行済株式数から自己株式を控除。

－ 連結業績推移－

（単位：百万円、円）

項目決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	EPS	配当
2005年6月(実)	2,332	86	69	16	1,513	700
2006年6月(実)	2,668	170	154	98	8,947	2,800
2007年6月(実)	3,188	153	147	71	2,940	1,725
2008年6月(実)	3,808	106	106	28	1,140	342
2009年6月(予)	4,000	59	60	28	1,140	345

*予想は会社予想。06年6月期までは非連結。07年1月に1:2の株式分割を実施。

ビューティ花壇の 2009 年 6 月期第２四半期業績について、ブリッジレポートにてご報告致します。

会社概要
2009 年 6 月期第２四半期業績
2009 年 6 月期業績予想
収益構造転換への挑戦
取材を終えて

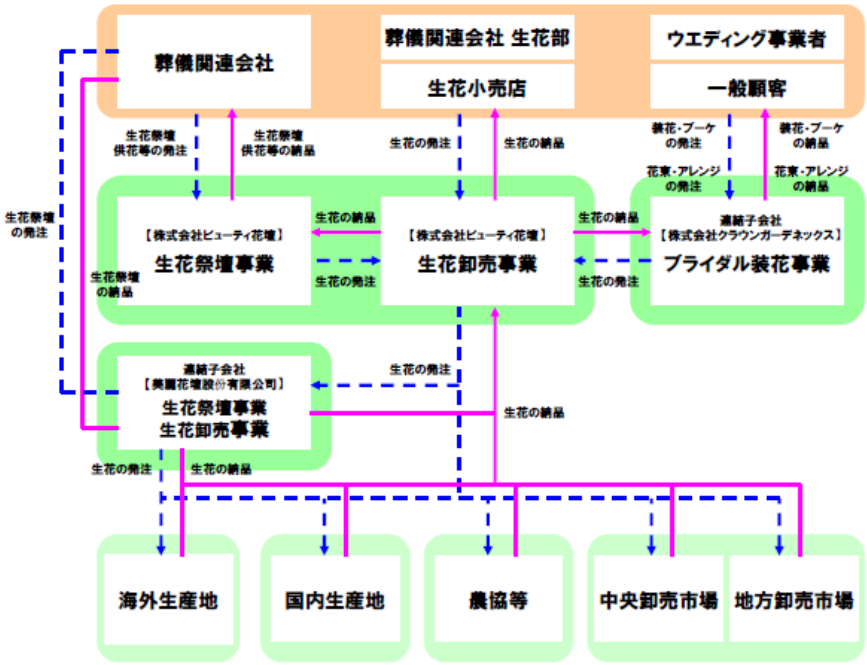
本資料は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。このレポートは当社が信頼できると判断した情報源（当該発行会社が作成した会社説明資料等）の情報に基づき作成したものですが、その正確性について当社が保証するものではなく、また当資料の一部また全部を利用することにより生じたいかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。本資料に関する一切の権利は（株）インベストメントブリッジにあります。また本資料の内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申しあげます。 Copyright(C) 2006 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

○ 会社概要

葬儀会社に対し、生花祭壇や供花等の企画・制作・設営サービスを提供する生花祭壇事業と、生花祭壇部門の仕入れ及び葬儀会社や小売店への販売を主体とする生花卸売事業が2本柱。

生花祭壇事業は、全国8か所の営業拠点（7支社 1 営業所）を通じて葬儀会社からの発注に応じて祭壇を販売する。また、生花卸売事業は、全国10か所の中央及び地方卸売市場の買参権（買取り参加者としての資格）を取得している他、全国 15 カ所の生産者とも連携する等で全国的なネットワークを構築、効率的な仕入を行っている。生花祭壇事業へ商品を提供すると同時に、外部顧客（生花店、葬儀社等）への販売も行っている。

1974 年 5 月創業。97 年 1 月に(有)ビューティ花壇として法人化され、2000 年 6 月株式会社化。06 年 6 月に東証マザーズに株式を上場した。



グループは同社の他、ブライダル装花等を手掛ける（株）クラウンガーデネックス、台湾で生花祭壇事業および生花の仕入れを手掛ける美麗花壇股份有限公司（台湾）の連結子会社 2 社。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。このレポートは当社が信頼できると判断した情報源（当該発行会社が作成した会社説明資料等）の情報に基づき作成したものですが、その正確性について当社が保証するものではなく、また当資料の一部また全部を利用することにより生じたいかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。本資料に関する一切の権利は（株）インベストメントブリッジにあります。また本資料の内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申しあげます。 Copyright(C) 2006 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

○ 2009 年 6 月期第2四半期業績

＜損益計算書＞

（単位：百万円、%）	2008年6月期第2四半期		2009年6月期第2四半期		
	金　額	構成比	金額	構成比	前年比
売　上　高	1,816	100.0	1,849	100.0	1.8
生花祭壇事業	1,353	74.5	1,468	79.4	8.5
生花卸売事業	388	21.4	321	17.4	▲ 17.3
その他事業	75	4.1	59	3.2	▲ 21.3
売上総利益	358	19.7	363	19.6	1.4
販管費	361	19.9	406	(2.3)	12.5
営業損失	▲ 3	(0.2)	▲ 42	(2.2)	–
経常損失	▲ 1	(0.1)	▲ 40	(3.0)	–
四半期純損失	▲ 11	(0.6)	▲ 56	(3.0)	–

2009 年 6 月期第 2 四半期の売上高は 1,849 百万円（前年同期比 1.8%増）となったが、増収の要因は、

①生花祭壇事業の増収：　96 百万円
②台湾子会社の増収：　18 百万円
③生花卸売事業の減収：　▲67 百万円
④ブランツスケープ事業の増収：　6 百万円
⑤ブライダル事業の減収：　▲20 百万円

以上から、生花祭壇事業の売上高は 8.5%増（前年同期比）となったが、生花卸売事業、その他事業の売上高は各々17.3%減（同）、21.3%減（同）となった。

しかしながら、生花祭壇事業の人件費増により売上原価が上昇、粗利率は 19.6%と 0.1 ポイント悪化した。さらに内部統制費用増、海外調達要因等の人件費増により販売管理費が 12.5%増加したことから、営業損益は 42 百万円の赤字となった。これにより、経常損益、当期純損益もそれぞれ上表のように赤字となった。

＜貸借対照表＞

（単位：百万円）	08年6月期	09年6月期 第2四半期	増減額		08年6月期	09年6月期 第2四半期	増減額
流動資産	**670**	**652**	**▲ 18**	**流動負債**	**450**	**555**	**105**
現預金	275	168	▲ 107	買掛金	63	105	42
売掛金	350	401	51	短期借入金	0	90	90
たな卸資産	16	32	16	その他計	386	359	▲ 27
その他	33	56	23	**固定負債**	**337**	**295**	**▲ 42**
貸倒引当金	▲ 5	▲ 6	▲ 1	社債	180	180	0
固定資産	**631**	**646**	**15**	長期借入金	125	88	▲ 37
有形固定資産	342	263	▲ 79	その他計	31	26	▲ 5
無形固定資産	107	89	▲ 18	**負債合計**	**788**	**850**	**62**
投資その他資産	181	293	112	**純資産合計**	**486**	**422**	**▲ 64**
資産合計	**1,302**	**1,298**	**▲ 4**	**負債・純資産合計**	**1,302**	**1,298**	**▲ 4**

2009 年 6 月期第2四半期末の貸借対照表は上記のようになった。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。このレポートは当社が信頼できると判断した情報源（当該発行会社が作成した会社説明資料等）の情報に基づき作成したものですが、その正確性について当社が保証するものではなく、また当資料の一部また全部を利用することにより生じたいかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。本資料に関する一切の権利は（株）インベストメントブリッジにあります。また本資料の内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申しあげます。　Copyright(C) 2006　Investment Bridge Co.,Ltd.　All Rights Reserved.

有形固定資産の減少および投資その他の資産の増加は、熊本支社の一部を賃貸しているため、固定資産から投資その他資産へ科目振替(67 百万円)したことによる。

＜キャッシュ・フロー＞

(単位:百万円)	08年6月期 第2四半期	09年6月期 第2四半期
営業活動によるCF	▲ 60	▲ 63
投資活動によるCF	▲ 74	▲ 80
財務活動によるCF	14	36
現金及び同等物増減額	▲ 121	▲ 107
現金及び同等物期末残高	144	168

キャッシュ・フローの状況は上表のようであるが、主な要因は、

営業CF:減価償却費＋33、売上債権の増加▲51、たな卸資産の増加▲14
投資CF:貸付金の回収+24、貸付金の支出▲45、差入保証金の差入▲51
財務CF:短期借入れ＋100、長期借入金の返済▲86

＜期初計画との差異＞

	2009年6月期第2四半期				
	期初計画		実 績		
(単位:百万円、%)	金 額	構成比	金 額	構成比	増減額
売 上 高	1,950	107.4	1,849	100.0	▲ 101
生花祭壇事業	1,374	75.7	1,468	79.4	94
生花卸売事業	504	27.8	321	17.4	▲ 183
その他事業	72	4.0	59	3.2	▲ 13
売上総利益	419	23.1	363	19.6	▲ 56
販管費	379	20.9	406	(2.3)	27
営業利益	40	2.2	▲ 42	(2.2)	▲ 82
経常利益	40	2.2	▲ 40	(3.0)	▲ 80
四半期純利益	20	1.1	▲ 56	(3.0)	▲ 76

上表のように売上高、利益とも期初計画を下回ったが、売上高が予想と乖離した主な要因は、

①生花祭壇事業の増収: 94 百万円
②生花卸売事業の減収: ▲182 百万円
輸入品調達の未達(数量確保出来ず)
花単価が安価で推移、小売店への販売不振
企業業績悪化による慶弔用の胡蝶蘭の需要減
③その他事業の減収: ▲13 百万円
主力のニューオータニが▲20%

さらに上記(前年比較)で述べたような要因(人件費増、内部統制費用等)によって利益も計画を下回った。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。このレポートは当社が信頼できると判断した情報源(当該発行会社が作成した会社説明資料等)の情報に基づき作成したものですが、その正確性について当社が保証するものではなく、また当資料の一部また全部を利用することにより生じたいかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。本資料に関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあります。また本資料の内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申しあげます。 Copyright(C) 2006 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

○ 2009 年 6 月期業績予想

＜業績予想＞

第 2 四半期累計期間において生花卸売事業、その他事業で大幅な予算乖離が発生したため、会社側では 2009 年 6 月期の業績を下表のように下方修正したが、部門状況、経費等について詳細な説明は行っていない。

（単位：百万円）	2008年6月期	2009年6月期		
	実　績	期初予想	修正予想	増減額
売上高	3,808	4,200	4,000	▲ 200
営業利益	106	200	59	▲ 141
経常利益	106	202	60	▲ 142
当期純利益	28	99	28	▲ 71

＜下期の基本方針＞

業績予想の修正にともない、会社側では下期の事業環境および事業方針について以下のように述べている。

（下期の事業環境）
- 葬祭市場は微増ながら引き続き拡大していく（市場の拡大傾向）
- 当面の経済状況から生花卸売、法人販売、ブライダル事業は厳しい状況が続く（注力市場の見極め）
- 生花祭壇事業の市場シェアは 1%台とまだ低く、伸ばす余地はまだ大きい（売上の拡大余地）
- 生花祭壇制作の技術者数も 200 名を超え、さらなる売上拡大を図る体制が整う（事業の拡大余力）
- 生花単価が安ければ、生花祭壇事業の売上増に伴い売上総利益が大きく伸びる（収益の拡大余地）

（下期の事業方針）
- 売上高の 80%を占める本業の生花祭壇事業に絞り、経営資源を集中させることで収益の最大化を図る
- それ以外の事業に関しては次年度を視野に入れ、下期中に事業の再編、見直しを行う。

（下期における主施策）
- 売上高の拡大、単価アップ、仕入原価の低減　⇒　売上総利益の最大化＋販売管理費の低減（経費削減＋効率化）　⇒　営業利益の増加

○ 収益構造転換への挑戦

同社の収益性は下記のような要因によって、季節（四半期）によって大きく変動する。会社側では、この「収益構造」を転換する方針を打ち出した。

＜課　題＞
- 現状は、繁忙期の第3四半期に合わせた体制を前期第4四半期に構築している。この場合、閑散期において販管費率が高くなる体質から抜け出せない。
- 繁忙期にさらに仕事が入る場合、断ると収益が上がらず、受けると業務委託費が増加してしまう。
- 花単価が最も下落する第4四半期に、新卒採用含めて人件費が大きく増えるので、収益が上がりにくい。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。このレポートは当社が信頼できると判断した情報源（当該発行会社が作成した会社説明資料等）の情報に基づき作成したものですが、その正確性について当社が保証するものではなく、また当資料の一部また全部を利用することにより生じたいかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。本資料に関する一切の権利は（株）インベストメントブリッジにあります。また本資料の内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申しあげます。　Copyright(C) 2006　Investment Bridge Co.,Ltd.　All Rights Reserved.

＜転換の考え方＞

- 閑散期に合わせた体制を組むことで、閑散期に営業赤字にならないようにする。
- 生花店ネットワークの構築により、繁忙期に仕事を断らず外注出来るような体制を作る。
- 繁忙期に営業を強化し、従来の閑散期に仕事が増えるようにすることで、花単価の安い時期に収益が上がる体制を構築する。
- 閑散期にネットワーク店の構築に注力し、年間を通じて適正な販売管理費を維持出来る体制を作る。

以上のような施策により、上期に赤字、第3四半期会に高い収益が上がるという体質からの脱却を図れる、と会社側は述べており、これは同社の新しい挑戦である。

○ 取材を終えて

第2四半期決算は上記のように期初予想を下回り赤字決算となり、これに伴い通期予想も下方修正されたが、現在の経済環境を考えれば仕方のないことであろう。むしろ修正幅がこの程度で留まったのは、同社の事業が景気の影響を受け難いためと思われる。現在の経済状況は誰にとっても先行きを予想するのが難しい時であり、同社に対しても業績の評価を出来る時期ではないだろう。

むしろ会社側が「挑戦」と述べているように、このような時期にどの程度「構造転換」を進められるかが今後の成長を左右すると言える。その結果が出るには時間がかかるであろうが、注目していきたい。この構造転換が達成出来れば、次のステップで同社の収益レベルはもう一段上に行くと思われるので、経営陣の実行力に期待したい。

ブリッジレポート（ビューティ花壇：3041）の　バックナンバー及びブリッジサロン（IRセミナー）の内容は、www.birdge-salon.jp/　でご覧になれます。

本資料は、情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。このレポートは当社が信頼できると判断した情報源（当該発行会社が作成した会社説明資料等）の情報に基づき作成したものですが、その正確性について当社が保証するものではなく、また当資料の一部また全部を利用することにより生じたいかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。本資料に関する一切の権利は（株）インベストメントブリッジにあります。また本資料の内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申しあげます。　Copyright(C) 2006　Investment Bridge Co.,Ltd.　All Rights Reserved.